

熱川温泉病院 山田 國友（理学療法士・主任）

- 功 績** 東京オリンピック・パラリンピックに医療ボランティアスタッフとして参加し、大会の円滑な運営に貢献。当院のアピールにも繋げた功績。
- 推 薦 者** 小山内 隆（リハビリテーション部・部長）
- 推 薦 理 由** 山田は東京オリンピック・パラリンピックの自転車競技の医療スタッフとして自転車競技連盟からの推薦を受け参加しました。これは彼の日頃の活動が評価されてのもので、大変名誉なことです。大会本番でも国内外のアスリートのコンディションの調整や救急処置を熱心に行い、医療現場を支えました。今回の彼の働きは当院のアピールにも繋がったと思いますので是非理事長賞に推薦申し上げます。

内 容

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により1年遅れで開催された東京オリンピック・パラリンピック。大会の様子は連日のTV放送で伝えられ、選手たちの活躍に感動したことは記憶に新しいと思います。静岡県でも自転車競技が隣の伊豆市で行われ、医療ボランティアスタッフとして理学療法士の山田と尾瀬の2名が参加しました。

入職10年目の山田は、責任感が強く誠実な仕事ぶりでスタッフからの信頼が厚い職員です。ボランティア精神あふれる彼は所属する静岡県理学療法士会の活動に協力し、日ごろから県内で行われる数々のスポーツ大会の医療スタッフとして活動し、負傷した選手の応急措置を担ってきました。そして、これまでの現場での実績が評価され、自転車競技連盟からの推薦を受け派遣されました。

彼はオリンピックではMTBとトラック競技、パラリンピックではトラック競技とロードレースを担当しました。トラック競技やロードレースでの最高速度は70km以上、そして荒れた急斜面を駆け降りるMTBも危険と隣合わせで、落車すれば選手生命に関わる重傷に至ることもあり、クラッシュがあれば医療スタッフとして迅速な対応が必要でした。また、全力を尽くした選手が痙攣し、ゴール後倒れ込むシーンも多く気が抜けませんでした。さらに試合後の選手の体のケアも担当しましたが、外国人選手とのコミュニケーションは思いのほか苦労したそうです。

合計14日間の活動を終えての感想ですが、「責任ある仕事をやり遂げた達成感」と「非日常的な救急の現場の緊張感」を経験でき、ケアをした選手たちから感謝されたことが忘れられず、また機会があれば是非参加したいとのことでした。世界中が注目した国際的な舞台で選手の身体のコンディショニングに専心し、もてる力を発揮させたことで大会の円滑な運営に貢献したことは大変誇らしいことで、当院のアピールにも繋がりました。是非理事長賞に推薦申し上げます。